

(意見書案第7号)

「防災・減災ニューディール」による社会基盤再構築を求める意見書

1960年代の高度経済成長期に整備された道路や橋梁、上下水道などの社会資本は、築後50年を迎え老朽化が進んでいる。国土交通省の「道路橋の予防保全に向けた有識者会議」は、提言(平成20年5月)の中で、「2015年には6万橋が橋齢40年超」となり、建築後50年以上の橋梁が2016年には全体の20%、2026年には同47%と約半数にも上る現状を提示。経年劣化により「劣化損傷が多発する危険」を指摘している。今後、首都直下型地震や三連動(東海・東南海・南海)地震の発生が懸念される中で、地域防災力の向上の観点からも、社会インフラの老朽化対策は急務の課題といえる。

災害が起きる前に、老朽化した社会資本への公共投資を短期間で集中的に行うことにより、全国で防災機能の向上を図ることができる。と同時に、それは社会全体に需要を生み出すことにもつながる。

よって、政府においては、国民と日本の国土を守り、安全・安心な社会基盤を再構築するため、防災・減災対策としての公共事業を緊急かつ集中的に行い、経済の活性化や雇用創出に資するよう、次の事項を実現するよう強く要望する。

記

- 1 道路や橋梁、上下水道、河川道、港湾など、老朽化が進み更新時期が近づいている社会インフラを早急に総点検し、維持・更新のための公共投資を積極的かつ集中的に行うこと。
- 2 電気、ガス、水道、通信などのライフラインの共同溝化・無電柱化を促進し、都市の防災機能の向上を図ること。
- 3 地域の安全・安心のために、学校等の公共施設や病院・介護等の社会福祉施設など地域の防災拠点の耐震化及び防災機能の強化を推進すること。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

平成24年6月18日

釧路市議会

内閣総理大臣
文部科学大臣
厚生労働大臣
経済産業大臣
国土交通大臣

} 宛